

クビレツタ陸上養殖の推進

南 洋 一

1. 年次到達目標

(1)平成10年度

- ・クビレツタ陸上養殖による周年養殖の確立

(2)平成11年度

- ・クビレツタ生産漁業者の増加
- ・陸上養殖によるクビレツタの品質向上

(3)平成12年度

- ・販路拡大へ向けた調整

2. 進捗状況

平成10年度は、伊良部町佐和田漁港内のクビレツタ陸上養殖場において周年養殖実験を行ったが、結果としては周年養殖実験は失敗に終わってしまった。原因としては施設の構造上の問題による照度不足が考えられた。

平成11年度は、水産業拠点強化構造改善特別対策事業で平良市久松漁港に架設ハウスを設置しクビレツタ陸上養殖実験を行った。実験は成功し、クビレツタの成長と照度、水温、流量、肥料の量の間の相関関係で貴重なデータを得ることができた。しかし、スジアオノリの発生という問題も残った。

平成12年度は、仮設ハウスは処分せずそのまま有効利用し養殖実験を継続することにした。基本的に実験方法は平成11年度と同じである。誰が実験を行うかについては平良市漁協組合長と宮古支庁農林水産振興課側で意見が分かれた。結局、平良市漁協組合長の意見が通り漁協の職員が養殖実験を平成12年4月から8月までは行った。

平成12年9月から11月までは養殖実験は中断し、施設は遊休化した。

平成12年12月からは海ブドウ生産組合を結成し、平良市漁協と生産組合が管理委託契約を

結んで漁業者が海ブドウ養殖実験を始めた。

漁協職員が海ブドウ養殖実験をした場合、思うようにうまくいかないことが分かった。平成11年度の実験の場合は国庫補助事業による実験であったため緊張感があり成功したが、事業が終わったとたんに緊張感がなくなり実験をやっているのかいないのか分からないような状態が長く続いた。海ブドウ養殖は思った以上に手間暇のかかるものであり、養殖した結果、利益が自分に返ってこなければ挫折してしまうと考えられる。海ブドウ養殖はクルマエビ養殖と同じようにはいかないことが分かった。

平成12年12月からは漁業者2人が海ブドウ養殖実験を始めた。海ブドウの成長は早く45日間で重量が5倍以上に増えたが、スジアオノリの発生も激しく水質が悪化した。また海ブドウの房が長く伸びなかった。このため漁業者はやる気をなくし挫折しかかったが、海ブドウの水深を浅くするとブドウの房の成長がかなりよくなりこの問題は解決した。しかしスジアオノリの発生を抑えることができなかった。

海水の回転数を多くするとスジアオノリの発生はかなり減った。更に試行錯誤して実験をするとスジアオノリの発生はなくなり海ブドウ養殖の展望が開けた。

一方、城辺町においては地元の漁業者が単独で施設を設置しクビレツタ陸上養殖をやろうとしていたので技術指導をした。一切、補助はなく自ら資金を投入して養殖をやろうとしていて、すごく熱意を感じた。自らも創意工夫をし、養殖技術が日に日に向上していくのが感じられた。いずれ陸上養殖に成功するだろう。

3. 評価

水産業拠点強化構造改善特別対策事業のうちソフト事業を使って陸上養殖実験をやったというのは発想が奇抜で素晴らしかった。1回で実験を成功させそれなりの実験データを得ることができたのは、奇跡的であった。

本庁に移動が決まりクビレツタ陸上養殖が成

功する前に後任の普及員にバトンタッチすることになったのが非常に心残りであるが、地元の漁業者にやる気をおこさせながら技術指導をし、自ら養殖をさせる方向に持っていったのは評価できると思う。

城辺町の地元漁業者が単独で造った養殖施設

